

令和7年度 自己評価

学校法人恵愛学園

三鷹小鳩幼稚園

1. 園の教育目標

- ◎ 2017年に改訂された幼稚園教育要領を踏まえ、人格の形成を目指し、平和で民主的な社会の形成者として必要な資質をそなえた心身共に健康な子どもの育成に努める。
- ◎ キリスト教の精神に基づいた保育。
 - ・園での共同生活を通し、一人ひとりが違うことに気付き、互いに認め合う中で自分がかけていない存在として生かされていることが感じられる保育を目指す。
 - ・生命の尊さや自然の神秘に対する感動を感じる子どもに育てる。
 - ・周囲の人への思いやりが持てる子どもに育てる。

2. 本年度に取り組む大切な目標

- ・年少組
 - ① 園生活に慣れ、喜んで登園する。
 - ② 友だちに思いを伝えあうことを喜ぶ。
- ・年中組
 - ① 友だちとつながりを感じ、一緒に過ごすことを楽しむ。
 - ② 活動や遊び興味を持ち、取り組む。
- ・年長組
 - ① 主体的に行動し充実感を味わう。
 - ② 皆で一つの目標に向かい、成し遂げる喜びを味わう。
 - ③ 一人ひとりの違いを認め合う。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価（A・・・十分に成果があった B・・・成果があった C・・・少し成果があった D・・・成果がなかった）

年少組 ①園生活に慣れ、喜んで登園する ②友だちに思いを伝え合うことを喜ぶ

	項目	取り組み内容	取り組み状況	評価
年少組 第1保育期	教育目標	1. 好きなことをみつける	・まずは安心して園での生活を過ごすことが出来るように、温かい雰囲気作りを心掛ける。 ・遊び、場所、おもちゃ、先生など、ひとつでも好きなことを見つけられるように一人一人と向き合い丁寧に関わる。	
		2. 自分でやってみる	・自分ではまだ出来ないことも、あきらめずに、保育者と一緒にまずはやってみることを繰り返し、自分で挑戦する気持ちを育てる。	
	反省	1. 好きなことをみつける	・めだか組で過ごした経験がある子がほとんどだったので、集団生活に慣れ、好きなことを見つけて遊んでいた。 (室内) 折り紙 電車、おままごと、粘土、ブロック お絵描き 塗り絵 (園庭) トレーラーハウス、おままごと、ボール、砂場、木の実や落ち葉拾い、追いかっこ ・新しい環境に不安があった人や、初めての園生活を始める子どもも安心して遊べるよう、机上遊びを用意したり、保育者と一緒に遊んだりしながら、徐々に慣れていくことが出来た。 ・ダンス、表現遊び、追いかっこ、体を動かす遊びを好む人が多かったため、活動や遊びに積極的に取り入れたことで、子どもたちみんなが楽しんで取り組んでいた。 ・粘土遊びや製作や活動で使用した道具をその翌日から積極的に使って遊びを楽しむ人も見られた。	A
		2. 自分でやってみる	・製作や身支度など保育者と「一緒にやってみる」という経験を重ねていくことで、出来ることが徐々に増えていった。 ・少し難しいこともできたことが喜びにつながり、次も挑戦して頑張ろうとする姿も少しずつ見られるようになってきている。 ・出来るようになったことを伸ばしていきながら、今後は自らの回りのことに取り組むことができるよう寄り添っていく。	
年少組 第2保育期	教育課程	1. 自分の思いを言葉にして伝える 2. 自分で出来たことに喜びを感じ、達成感を味わう	・困ったことがあっても、そのままにしてしまったり、友達との関わりの中で思うようにいかない手が出てしまったり、号泣する場面が見られるので言葉で伝えていけるよう援助する。 ・身の回りのことや、活動を自分から取り組み、達成感を味わい自信につなげていけるように援助していく。 ・皆で取り組む行事も多くあり、一人一人が心を込めて楽しめる経験がたくさんできるように、子どもの様子を見ながら無理のない計画を立て保育を進めていく。	

	反省	目標	1. 自分の思いを言葉にして伝える ・朝から友だちに積極的に「一緒に遊ぼう」と声をかけあったり、遊びの中でもアイデアを出し合いながら遊んでいた。 ・身支度などで出来ないことがあると「手伝って」と自分から伝えられるようになった。 ・友だちとの間で問題が生じた時、保育者が仲裁にはいることで思いを受け止め、一緒に考えて言葉で相手に気持ちを伝えるようになった。 ・工作したものを友だちに紹介する時間を作り、自分で工夫したことや、頑張ったことを言葉にして紹介をしたり、また友だちの作品に興味を持ち、「これは何？」と聞いてみたり、紹介の時間を楽しんでいる。 ・今後は、さらに友だち同士の関わりを楽しみながら、自分の思いや気持ちを少しずつ相手に伝えることができるよう、援助していきたい。	B
		2 自分で出来たことに喜びを感じ、達成感を味わう。 ・オムツが外れたり、身支度を一人で全て出来るようになったり、箸が使えるようになったことがとても嬉しい様子だった。 ・親子プレイデーやお芋掘り遠足など行事を通して、友だちと一緒に活動する楽しさを知り、一人一人が力を発揮し、達成感を感じることができた。 ・第1保育期よりも自分で出来ることが増え、自分の力で行おうとする姿が見られるようになってきた。しかし新しいことに躊躇し、戸惑う姿がある。今後は自分で出来たことを喜び、その喜びをさらに次につなげて新しいことにも挑戦できるよう援助していきたい。		
年少組 第3保育期	教育課程	目標	1. 自分の思いだけでなく、相手の思いにも気付く ・素直で純粋な為、発言する子も多いが、保育者が話している途中で話し出してしまう子が多く、最後まで集中して話が聞けるよう伝えていく。 ・友達との関わりの中で、自分の思いが通らないと、トラブルになることが多く、気持ちに寄り添いつつ、相手の気持ちにも気づき、受け入れてコミュニケーションをとれるよう促していく。	
		2. どんな事でも自分から挑戦してみようとする ・ほとんどの子が自分で色々なことができるようになってきた。新しいことにも挑戦してみたいと思えるように環境を整えていく。 ・子どもの問い掛けや確認に、よりしっかりと応えて、子どもたちが自分で出来ることに自信をもちながら、安心して前に進むことができるよう、支えていきたい。		
	反省	目標	1. 自分の思いだけでなく、相手の思いにも気付く ・自分の気持ちを言葉で伝えられる子が多くなり、友だち同士のトラブルが減った。最初は仲裁に保育者がはいっていたが、第三保育期になると「それじゃあ順番を決めよう」「〇〇されて嫌だったよ」と伝え、自分たちで解決しようとする姿が見られるようになった。 ・みんなの前で、製作の発表をする時も、工夫したことを細かく伝えたり、最後まで興味を持って聞く姿があった。 ・集団で友だちが遊んでいるところに「入れて」、「いいよ」と言いながら、遊びの中でも役割分担をしてコミュニケーションをとりながら楽しんでいる姿があった。	A
		2. どんな事でも自分から挑戦してみようとする ・第三保育期は「できない」と保育者をお願いをする人がほぼいなくなり、何事も意欲的に取り組む人が増えた。 ・一人でトイレに行く、衣服の着脱、箸が使えるようになったことなどを通して、何かが出来るようになることに嬉しさを感じ、更なる意欲に繋がった様子。 ・遊びでは大縄や、一人縄跳び、丸太、鉄棒などにもチャレンジして、一つ一つ出来るようになったことが自信となり、新たな挑戦につながっている様子だった。		

年中組 ①友だちとつながりを感じ、一緒に過ごすことを楽しむ
②活動や遊びに興味を持ち、取り組む

	項目	取り組み内容		取り組み状況	評価
年中組 第1保育期	教育課程	目標	1. 新しい環境や保育者に慣れ、園生活を楽しむ	・慣れ親しんだ環境から新しい環境に変わり、不安や緊張を抱いている人も多いと思う。まずは、そのような子どもたちの思いを受け止めながら、子どもたちが安心して過ごすことが出来るように、援助したいと思う。また、毎日の園生活を通して、少しずつ新たな環境に慣れ、年中組としての生活を楽しんで欲しい。	
			2. 自分の思いを言葉にして伝える	・年少組の時よりも、友だち関係や園生活の中で楽しいことだけでなく悲しいことや思い通りに行かないことなど様々な出来事を経験すると思う。そのような時に、少しでも自分の気持ちや意見を言葉で相手に伝えることが出来るように見守っていききたい。	
年中組 第2保育期	反省	目標	1. 新しい環境や保育者に慣れ、園生活を楽しむ	・進級当初から、思っていた程大きな混乱なく環境に馴染んでいたように思う。クラス全員で氷鬼をする時間を作ったり、新入園児歓迎会（すみれさんようこそ会）では、クラスみんなで意見を出し合い、一つの目標に向かって団結出来たことで、みんなと一緒だと楽しい！という思いをたくさん経験することが出来た。	A
			2. 自分の思いを言葉にして伝える	・困ったことがあった時に「お茶こぼれた」「水筒の水なくなった」等と、困りごとのみを伝える人が多かった。伝えられることは凄いが、年中組になったので、そこから一つ前進をして「水筒の水がなくなったので“水を入れてください”まで言えるようになる」と嬉しい。 ・遊びの中でルールを確認したり、イメージを共有する場面では、思いを伝えている人が少しずつ増えてきている。しかし、友だち同士での揉め事は、自分の思いを保育者に伝えることで精一杯だった。嫌だったことを保育者に伝えに来てくれた時は、直接本人に伝えるように話し合いの場を設けたりした。第二保育期は、嫌だったことも直接相手に伝えられるようになって欲しい。	
年中組 第2保育期	教育課程	目標	1. たくさんの遊びや活動をみんなで楽しむ	・第一保育期は、少しずつ友だちへの意識が高まり、友だちやクラスのみんなと一緒に過ごす楽しさに気付き始めていた。第二保育期はそのような、「みんなで一緒に楽しむ」経験を、親子プレイデーやお芋掘り遠足などの様々な行事を経験しながら、たくさん積んで欲しい。自分だけではなく、みんなと一緒に取り組んだからこそ楽しいという思いを感じて欲しい。	
			2. 自分の思いを言葉にして、相手の気持ちに気づく	・第一保育期は自分の思いや意見を言葉にして相手に伝えることを意識して過ごした。困ったことがあった時も、保育者にどうしたのかを具体的に伝えられる人や、保育者だけでなく友だちにも自分の思いを伝えられる人も徐々に増えてきている。しかし、まだ伝えることに精一杯で相手の気持ちに触れることまでは難しい。引き続き自分の思いを自分なりの言葉で保育者や友だちに伝えていながら、自分とは異なる相手の気持ちの存在に気付くことができるようになって欲しい。	

	反省	目標	1. たくさんの遊びや活動をみんなで楽しむ	・第一保育期は自分のことで精一杯の様子だった人も、第二保育期に入ってから友だちと共通の話題で盛り上がり、友だちの名前を呼ぶ人が増えた。特に朝の挨拶は「〇〇ちゃん、〇〇くん、おはよう！」と絶対に名前を言ってから挨拶する様子がある。朝の元気な挨拶から一日が始まることもあり、朝からみんなとても楽しそうだった。また、欠席の人がいると「〇〇ちゃん、今日ご旅行なんだよね」と予定を把握し、「明日は全員で幼稚園に集まりたいね！」と言っている様子もあり、仲間の存在を大切に感じていることを嬉しく思う。 ・クラス全員で鉄棒の前回りに挑戦する時間を作った。第一回目は「怖い」「回るのは出来ない」と躊躇していた人たちも、友だちが次々に成功する姿を見て刺激をもらい、挑戦する人が増えた。また、友だち同士で、「こうやってやるんだよ」「教えてあげるよ」と教え合う姿もあり、友だちの存在に力をもらっていた。その結果、クラスのほぼ全員が出来るようになった。	A
			2. 自分の思いを言葉にして、相手の気持ちに気づく	・第一保育期と比べると、自分の思いを言葉にして伝える人が増えたと思う。しかし、一方的に伝えるのみで、相手の思いに気付くところには辿り着いていない。また伝える相手も、友だち同士で何か嫌なことがあった場合も、保育者に伝えることで精一杯な人が多いかもしれない。第三保育期も引き続き意識していきたい。	
年中組 第3保育期	教育課程	目標	1. 自分の思いをのびのびと表現する	・第二保育期では、様々な活動や遊び、行事を通して、園生活をしながら、子どもたち同士での挨拶や会話が增える等、友だちとのつながりが強くなった。その中で、自分の好きなものを言葉や工作などの作品で表現したり、自分の思いや経験を保育者や友だちに伝えたりする姿が多く見られていた。そこで第三保育期では、自分の気持ちや個性を様々な方法で、のびのびと表現し、自分らしさをより豊かに表すことができるように見守っていきたい。	
			2. 自分の思いを言葉にして、相手の気持ちに気づく	・第二保育期は、以前よりも自分の思いを言葉にして相手に伝えることの出来る人が増えたが、まだ伝えることに精一杯で、相手の思いに気付くところまでは辿り着くことが難しい様子の人も見られる。ただ、子どもたち同士でどのような言葉の伝え方が優しい伝え方なのかを考える姿も見られるなど、相手の気持ちを考えるということの芽生えが徐々に見られてきている。第三保育期では、この芽生えを大切にしながら、相手の気持ちに触れて、自分とは異なる相手の思いに少しでも気付くことが出来るよう寄り添っていききたい。	
	反省	目標	1. 自分の思いをのびのびと表現する	・第三保育期は、自由遊びの時間等、自分の好きな事を見つけて遊ぶ人が増えた。製作物や自分の好きな物、見つけた物を紹介する時間にも、今まで参加していなかった人が紹介する姿が増えた。 *自由遊び／製作 ・朝の製作で自分の作りたい物を表現する人が多く出て来た。(掃除機、スクイーズ、ロープウェイ等) *スケッチブック（個人用） ・果物畑やお店屋さん、文字等思い思いに描いる。 ・毎回の製作の後に取り組むようにしたこと経験を重ね、イメージ豊かに描けるようになった。自分の思いや世界を表現する場として良かった。 *わくわくアート ・馬の絵：動物園にいる馬、にんじん畑にいる馬、乗馬している人など馬をテーマに想像を膨らませて背景を描いている人が多かった。	B

		2. 自分の思いを言葉にして、相手の気持ちに気づく	相手に思いを伝える時に、伝え方が一方的で、自分の気持ちを伝えることで精一杯の様子がある。相手の気持ちに気付くことは未だ難しい。相手にも様々な気持ちがあることに気付いていないのかもしれない。これから一人ひとりが様々な気持ちを体験することや、困ったことについてみんなで考え、気持ちを共有する時間を作っていくことも必要だと思われる。	
--	--	---------------------------	---	--

年長組 ①主体的に行動し充実感を味わう

②皆で一つの目標に向かい、成し遂げる喜びを味わう

③一人ひとりの違いを認め合う

	項目	取り組み内容		取り組み状況	評価
年長組 第1保育期	教育課程	目標	1. 興味や関心のあることを十分に楽しむ	自分の好きなこと／やりたいことを見つけ、幼稚園に行くのが楽しみになって欲しい。	
			2. 基本的な生活習慣の大切さを理解する	生活の中の一つ一つの約束事の意味や必要性を理解しながら、自分たちで生活を整えていく。	
			3. 自分や相手の思いや考えを深く知る	年長組になると、成長と共に様々な思いや考えが芽生えてくる。そうした思いや考えが、相手にも自分にもあるということを知り、時に互いにぶつけ合ってみたり、折り合いを見つける経験もして欲しい。	
	反省	目標	1. 興味や関心のあることを十分に楽しむ	- 園庭では、砂場／泥遊び／水遊び／おままごと／電車ごっこ／鉄棒／大縄／虫探し／水鬼／だるまさんがころんだ／中当て／サッカー／ブランコ 等 - 室内では、折り紙／廃材工作／三つ編み／お絵描き／粘土／トランプ／すごろく／オセロ／あやとり／おままごと／大積み／キャンプごっこ／フラフープ／ジャンプボール／宇宙関係／歌／ダンス 等 - 様々な遊びを経験し、それらで遊び込む姿が見られ、「今日は〇〇をしよう！」「明日は△△をしたい！」と、登園を楽しみに過ごす様子があった。	A
			2. 基本的な生活習慣の大切さを理解する	- 約束事の意味（必要性）を聞くと答えることができ、正しいやり方を伝え、それを守ろうとしたり、出来るようになるまで練習を続けようとする姿があった。 - しかし、一連の流れで行うもの（トイレ→手洗い→水分補給等）において、時々手順が抜けてしまう人がある。気持ちが他に逸れてしまっているようなので、集中して行うように、また手順をしっかりと覚えられるような声掛け（①トイレ②手洗い③水分補給等）を、第二保育期は意識していきたい。	
			3. 自分や相手の思いや考えを深く知る	- 作品紹介や感想タイム、ゴールデンウィークの思い出発表等、皆の前で自分の思いや考えを述べる機会を沢山持ってきた為、そうした部分がかかなり伸び、単語ではなく文章で伝えられるようになった。 例「楽しかった」→「〇〇がこういう風楽しかったです。 お母さんと弟と一緒にきました。」 「〇〇のお家」→「〇〇のお家を作りました。 ここは△△と□□を使って作りました。 中をレインボーに塗ったのがポイントです。」 - 第二保育期では遊びの場面でも、自分や相手の内面を掘り下げ、相手に伝える経験を重ねて欲しい。	

年長組 第2保育期	教育課程	目標	1. 基本的な生活習慣を守る	・第一保育期、保育室が変わり、生活の中の新しい約束事や、これまでの約束事、その一つ一つの意味や必要性を確認しながら、過ごしてきた。「これは何のために行うのかな？」とみんなに尋ねると、答えられる姿があった。しかし理解はしていても、うっかり忘れてしまうこともあった為、第二保育期では、その覚えたことを、実際に行えるようになって欲しい。	
			2. 思いや考えを言葉にして伝え合う	・第一保育期、遊びの中や、クラスでの話し合い、みんなの前に立った時等、自分の考えや気持ちを整理し、整理したものをどんな風に話したら、相手やその場にいる人たちによく伝わるのかを、その都度みんな考えてきた。その結果、自信を持って思いや考えを伝えられるようになってきた。第二保育期では、「自分を知る」、「伝える」から一歩進み、より言葉のキャッチボールを行いながら、「伝え合う」という経験を重ね、互いの思いや考えを理解していくことが出来るようになって欲しい。	
			3. みんながいるから頑張れる。	・第二保育期に控えるいくつかの行事を作り上げていく中で、楽しいことばかりではなく、時に大きな挑戦が必要であったり、友だちと思いがぶつかったり、悔しい思いをしたり、自分一人の力ではどうしようも出来ないことが起こることも予想される。その過程で、友だちと支え合い、励まし合い、力を合わせながら、困難を乗り越え、「みんながいたから頑張れた！」という経験をして欲しい。	
年長組 第3保育期	反省	目標	1. 基本的な生活習慣を守る	・第二保育期は、第一保育期に覚えた生活の中の新しい約束事や、これまで通りの約束事の一つ一つの意味や必要性を理解し、さらにそれらを守ろうとしたり、より丁寧に行おうとする姿があった。保育者が声を掛けなくても、子どもたち同士で声を掛け合い、クラス全体として定着してきたと感じる。	A
			2. 自分の気持ちをはっきりと伝える	・親子プレイデーのリレーのアンカーや、クリスマスページエントの役決め方法を決める話し合いでは、友だちの意見を聞き、それに対し案を出したり、時に反対したり、ただ“伝える”のではなく、双方向のコミュニケーションが取れていると感じる場面が増えた。 ・伝える際に声が小さくなってしまうことがクラス全体として課題だったが、ページエント後の感想タイムで、広い空間で、台詞や歌の時と同じ声の大きさで伝える経験をしたことで、お腹から声を出す感覚がわかり、“みんなに伝わる伝え方”も意識出来るようになった。 ・遊びの中の揉め事も、「自分はこうしたい」と主張したり、それを受けて「じゃあこうしよう」と案を出す姿があり、保育者が介入しなくても、自分たちで解決出来るようになってきた。	
			2. みんながいるから頑張れる	・親子プレイデーに向けてリレーやソイヤを行う前には、保育者が声を掛けなくても、毎回のよう子どもたち同士で声を掛け合い、円陣を組む姿があり、“みんなで心を一つにして”という意識が強かった。 ・クリスマスページエントでは、普段声が小さくなってしまうがちな人も、友だちの様子を見て、大きな声で台詞や歌を頑張る姿があり、互いに刺激し合い、高め合っていると感じた。 ・行事だけでなく、鉄棒、大縄、短縄といった遊びの中でも、友だちの頑張りが刺激となり、練習を続け、上達していく姿があった。	
年長組 第3保育期	教育課程	目標	1. 友だちと協力しながら遊びや活動を深めていく	・これまでの三年間の経験を活かしながら、友だちと協力し合い、より子どもたちが中心となって、それらの行事に向けての活動や、遊びを進めていく。また、たくさん心を動かしながら、じっくり深めていく欲しい。	
			2. 最後の園生活を伸び伸びと楽しむ	・「あ～、みんなと過ごせて、小鳩幼稚園で過ごせて、本当に楽しかった！」そんな風に思いながら、卒園の日を迎えて欲しい。	

	反省	目標	1. 友だちと協力しながら遊びや活動を深めていく	・遊びに関しては、第三保育期はほとんど保育者の介入は不要だった。工作が好きな人たちが、友だちと協力して作品を作ったり、コマ回しを習得した人が練習中の人に教える姿もあった。 ・年長組主催のお別れ会“こぼとのみんな ありがとうの会”や卒園式の思い出発表に向けての話し合いでは、子どもたちからたくさんのアイディアが出て、オリジナリティ溢れる会や言葉になった。 - また、司会の言葉を複数人で言う際には、子どもたち同士で「せーの！」と言ってタイミングを合わせたり、自分たちで作り上げていく雰囲気があった。	A
			2. 最後の園生活を伸び伸びと楽しむ	・第三保育期は行事が続いたが、負担に感じることなく、一つ一つを指折り数え、とても楽しみに登園する様子があった。 - 行事の合間に、ジブリ作品を楽しんだり（卒園遠足の導入として）、井の頭公園にお花見にも行け、ゆったりと過ごすことが出来た。	

項目	取り組み内容	取り組み状況	評価
特別支援教育	1. 特別支援教育の理解を深める	・特別な働きかけはせず、その場所で共に生活することにより、周りの子どもたちがどのような時に助けを必要としているかを理解し、子どもなりに行動に移していく事を目指している。	A
	2. 該当児に対しての個別の配慮	・個別の配慮が必要な園児に対しては常に行動を把握するよう保育者全員で共有する努力をしている。また一人一人に寄り添って援助するだけではなく、子どもたちの仲間として遊びに参加出来る状況を提供する努力をする。正看護師を採用し、保育の現場で常に子どもたちの様子を見守っている。	
	3. 医療・福祉などの関係機関との連携	・怪我や病気に関しても看護師に相談し、必要な場合はすぐに保護者に連絡をし、専門医療機関に行くよう努める。	
	4. 家庭との連携	・月末に園での様子を連絡帳に記載し、保護者の方が我が子の今の様子を知る機会を作っている。疑問がある場合には、その都度個別に対応している。	
	5. 療育機関との連携	・療育施設から希望がある場合は、当園での様子を見て頂くことも出来る。但し、保護者の方の同意があるのみ行っている。	
子育て支援	1. 子育て相談	・地域の未就園児を対象に、少人数に園庭開放をし、その際子育ての悩みなどの相談を受けることにより保護者に寄り添い一緒に子育てを考えていくよう努めていく。	B
社会貢献	1. 難民献金 2. 古着でワクチン 3. ワールドビジョン・ジャパン	・世界には戦争や災害で自国を追われた人たちがいることを伝え、日々の食糧もない貧しい人たちの為に、月1回おかずの入っていないお弁当（ふりかけ弁当）を持参し、おかずの分のお金を献金し、少しでも誰かの為に役立つことの大切さを伝えている。 ・ワールドビジョン・ジャパン 6月にはワールドビジョン・ジャパンのスタッフを幼稚園に招き、当園も参加している難民献金は食料不足で、困っている国の子ども達にとどけている事、また一日に1回の学校給食も、小さなカップ一杯の食べ物で凌いでいる事などを子ども達に伝えて頂いた。	A
	4. クリスマス献金	・12月のクリスマス礼拝では、御父母の皆様から頂いた献金を恵まれない子どもたちのために全額献金している。 - NPO 法人 “グッドネーバーズジャパン” に全額寄付 - 国内で食糧支援を主に実施している団体、NPO 法人 こども達にお腹一杯のご飯が与えられる社会になるための働きをしている団体	

教育課程	1. 教育目標・重点目標の設定	・前述の通り細かく教育目標を定め学期毎に取り組みの経過を教師間で協議し、次に進めている。	A
	2. 年間指導計画の作成	・全教員で協議し、年間の教育目標を作成している。	
	3. 職員間の子どもに対しての共通理解	・学期毎に全教師で学年の壁を取り払ってこどもについての課題を話し合い教師間で共通理解をした上で、次学期に活かせるよう努力している	
	4. 外部の専門家による指導 「東京都が実施している東京すくわくプログラムの取り組みを利用して、英語、お絵かき、体操を保育時間内で実施している。」	・幼児期に外国語になれるために、英語の教師を招き、4月より週1度「英語で遊ぼう」を実施している。 ・絵の先生を招き、子どもたちの持っている力をより伸ばす為に各学年の教師が行う製作・お絵かきの他に月に1度各学年毎に「お絵かき」の時間を実施している。 ・1ヶ月に2回体操教室があり、全学年30分ずつ指導者の指導の下保育者と共に運動の時間になっている。 ・学期毎に地域の方が手作りのミニ電車を提供してくれて、園庭にレールを敷いて全園児が乗車する日を設けた。	
研修（資質向上の取り組み）	1. 教育の質の向上を図る	・全日本私立幼稚園連合会主催の研修会「子ども・子育て支援制度における保育の質を考える」に参加し神戸大学国際人間科学部子ども教育大学教授北野幸子先生の「昨今大きな時代の変化が有り、特に子育てを取り巻く環境が必ずしも良い状況とは思えない現状ではあるが、子どものころは今も昔も全く変わらず「お母さん」が大好きで、大きな愛情が担保された中で一日一日確実成長されていく。」と言うお話しに心を打たれた。 ・三鷹市子ども発達支援センター主催「子育て支援施設職員専門性向上研修」教師3名が出席。秋山子どもクリニックの医師や専門知識のある方々の研修では今後の保育に大変有効な知識を得ることが出来た。	C
	2. 園内研修	・年に1度「幼稚園教育要領・保育所保育指針」ならびに倉橋惣三著作の「育ての心」などの冊子や本を参考にしながら勉強会をし、保育者の更なる質の向上に努力している。	
教育環境整備	1. 施設設備の安全、維持管理のための整備	・園児の作り付けの木製の下駄箱が破損していたので全面改修をした。	A
	2. 遊具・用具・図書	・ケヤキの丸太の遊具や木製の遊具の補修をし、今後も木のぬくもりを大切にしていきたい。	
食育に関して	1. 食物の観察	・秋の遠足でお芋掘りに行き、土を掘り起こし大きなさつまいもの収穫と年長組は里芋掘りを経験した。その後、広い畑を自由に走り回り、土の感触を楽しんで自然を満喫することが出来た。そして、後日子ども達が収穫した芋を使ってとん汁を作り、全園児で食した。	B
	2. お弁当・給食	・お弁当、給食どちらも自由に選択が出来る。お芋掘りの後は、お弁当のおかずで自分たちが収穫したお芋が入っている子どももいた。	
保健管理	1. コロナウイルス対応	・文部科学省発行の[学校での児童生徒等や教職員の新型コロナウイルスの感染が確認された場合の対応ガイドライン]を参考にして当園のガイドラインを作成し、厚生省からの改正が行われる度に当園のガイドラインも変更して対応している。 登降園時に、保護者の検温とアルコール消毒をお願いしている。	A
	2. 日常の健康管理	・教師も園児達も毎朝検温し、保護者がアプリに記録を入れることにしている。又登降園時には保護者の検温をさせて頂いている。	
	3. 健康診断	・園児は年2回園医と歯科医による検診を実施している。	
	4. 事故等の緊急事態発生時の対応	・常駐の看護師の助言により判断し、迅速な対応を心掛けている。	
	5. 職員の健康管理	・教職員全員が年に1度人間ドックを実施している。又、非常勤の職員にも、レントゲンとB型肝炎、運転手には脳ドックの健診を義務づけている。	

安全管理	1. 学校防災計画の作成及び実施	・年間の防災計画を立て、各機関に依頼して実施している。(火災訓練・総合避難訓練など消防署員立ち合い)	A
	2. 危機管理マニュアルの作成と活用	・万が一の備えとして、職員が不審者を演じ、園児をまもるための訓練をしている。又、予期せぬ事故を想定してAEDの講習を受けている。	
	3. 安全点検と教職員の安全対応力の向上	・遊具の点検は登園時前に行っている。また、園児が遊具で遊んでいる際は、保育者が注視している。	
保護者との連携	1. こひつじノート	・毎月末に全園児の当月の様子を書いてお知らせしている。	
	2. 行事における保護者への参加呼びかけ	・各学年共に、保護者会・保育参観・親子プレイデー(運動会)・クリスマス礼拝などの参加を呼びかけている。	
	3. 園だより(小鳩だより)の発行	・年12回の「小鳩だより」を発行し、園での様子やお知らせを記載している。	
	4. れんらくアプリの導入	・様々な情報並びにお知らせについては、その都度連絡アプリにて配信している。	
	5. 登園・降園について	・門に保育者が必ず立ち、子どもの安全や様子を見守っている。	